

平成 28 年度 津田海岸におけるハマグリ稚貝穿孔率調査

益田川と海をつなぐ自然環境保全活動

津田海岸において、打ち上げられたチョウセンハマグリ稚貝の合弁死殻を採取し、死因の特定のためにツメタガイの食害跡の有無を調査した。

1. 調査方法

稚貝生息状況調査を行った津田海岸において、波打ち際に打ちあげられた合弁死殻をランダムに 150 個体以上拾い集めた。その後、ツメタガイの食害跡の有無を確認し、穿孔率を算出した。また、採取した死殻の殻長を計測し、殻長分布表を作成した。

調査日時

第一回：2016 年 9 月 8 日 採取個体数 246 個体
第二回：2016 年 11 月 4 日 採取個体数 173 個体
第三回：2017 年 1 月 日 採取個体数 161 個体

2. 調査結果

2. 1. 穿孔率の推移

調査ごとの穿孔率の推移を Fig.1 に示す。

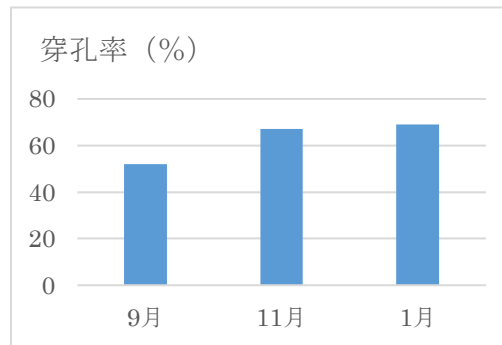


Fig.1 穿孔率の推移

9月調査時の穿孔率は 52%、11月は 67%、1月は 69%であった。

2. 2. 死殻の殻長分布

調査ごとの死殻の殻長分布を Fig2 ~ Fig.7 に示す。

いずれの調査時も、ツメタガイの食害跡がある死殻とない死殻では、殻長分布の傾向が異なった。食害跡のある死殻の殻長分布が 20(mm)台後半に最頻値があるのは、その大きさのハマグリが最も食害に遭い易いことを示唆していると思われる。また、1月調査時には、他の調査時よりも 30(mm)以上の食害跡の無い死殻の割合が多かった。

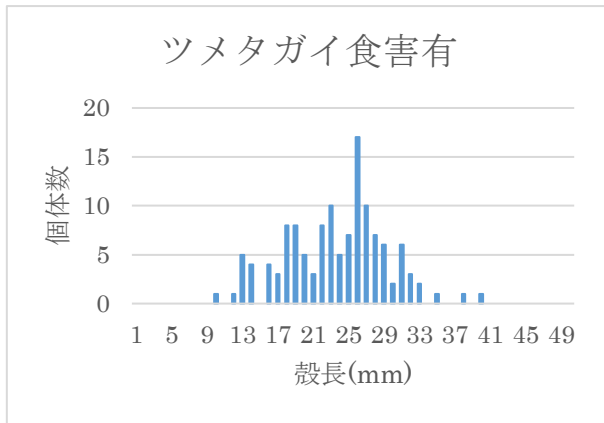


Fig.2 殻長分布 (9月調査時 食害あり)

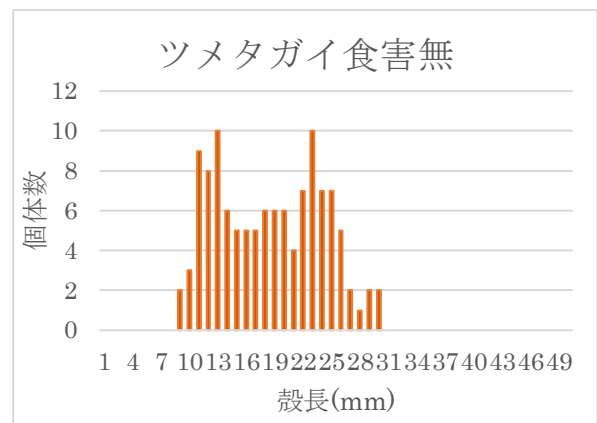


Fig.3 殻長分布 (9月調査時 食害なし)

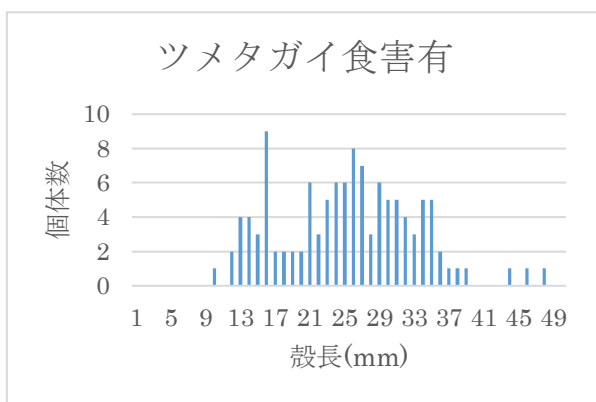


Fig.4 殻長分布 (11月調査時 食害あり)

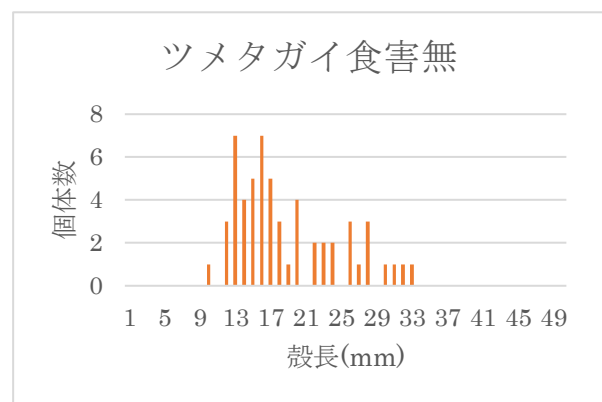


Fig.5 殻長分布 (11月調査時 食害なし)

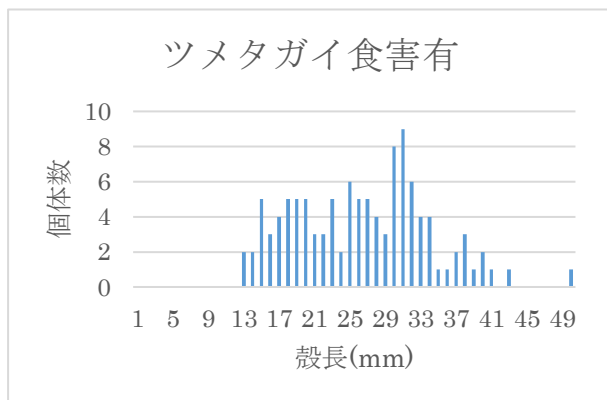


Fig.6 殻長分布 (1月調査時 食害あり)

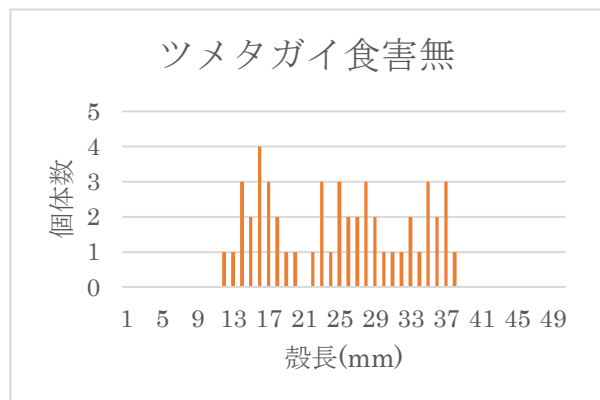


Fig.7 殻長分布 (1月調査時 食害なし)

3. 考察

前年以前の調査では、穿孔率が80%前後であることを考慮すると、本年は穿孔率が小さい傾向があった。特に9月調査時は食害跡の無い死殻の割合が極めて高く、夏季に高水温等の稚貝が死滅する何かしらの自然現象が起こった可能性が高い。

採取した試料写真



9月調査時



11月調査時



1月調査時